

児童生徒自らが考え、主体的・創造的に表現・鑑賞する音楽科授業をめざして ～“初めての音楽”との出会いを通して～

1 設定理由

音楽科は、美しいものや、優れたことに接して感動する心など、児童の豊かな人間性や感性を育てるという大きな役割を担っている。

そんな大きな役割を担う音楽科と出会う1年生。その出会いを感動的なものにしたいという思いを1年生の担任となり、強く抱いた。

1年生は、さまざまな体験や遊びを通して、音楽性を身に付けていく。だからこそ、音楽科と初めて出会うこの時期に、“音楽の楽しさ”、“感動”、“共有体験”など、みんなで一つの音楽をつくる喜びを十分に感じさせたい。そして、音楽を十分に楽しむ中で、音楽を形づくっている要素に気づかせたい。

音楽科は、「音楽を愛好する心情」、「音楽に対する感性」、「音楽活動の基礎的な能力」の3つが密接な関係にある。指導者は、1年生の学習を素地として、学年に応じた力を継続的に育てていく必要がある。

しかしながら、市原市内の小学校には、音楽専科が配置されていないのが現状である。よって、学級担任の力が音楽教育に及ぼす影響がとても大きい。逆に、学級担任だからこそ、他教科と関連を図ったり、個に応じた指導をしたりして、音楽科を中心とした学級経営を行うことができる。

そこで、1年生の学級担任であることを生かし、国語科や図画工作など他教科との関連も積極的に取り入れ、子どもたちが音楽に熱中して心から楽しいと感じる多様な学習活動を展開することで、「児童生徒自らが考え、主体的・創造的に表現・鑑賞する音楽科授業」に迫っていきたいと考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

仮説(1) 音楽を形づくっている要素を視覚的に捉えられるように工夫することで、児童自らが考え、主体的に表現することができるであろう。

仮説(2) 生活の中に音楽を取り入れ、楽しく音楽に関われば、音楽表現に対する思いや意図を持ち、創造的に表現することができるであろう。

3 研究内容

授業実践 第1学年(2学級での実践)「はくを かんじて りずむを うとう」

検証授業(1) りずむに あわせて はちを おはなに とめよう (仮説1)

「ぶんぶんぶん」(J J J J J J J J)のリズムを打つ。

検証授業(2) りずむに のって おべんとうをつくろう (仮説1・2)

「音楽づくり」食べたいものを2つ決めてリズムお弁当を作る。

4 結論

○音楽を形づくっている要素を視覚的に捉えられるように工夫したことで、既習のリズムを振り返ることができ、自分で曲にあうリズムを選んで打つことができるようになった。

○生活の中に音楽を楽しく取り入れ、継続したことで、自然と拍感やリズム感が身に付いてきた。そのため、音楽づくりでも、自信をもって自分の思いや意図を創造的に表現できるようになった。

1 研究主題

児童生徒自らが考え、主体的・創造的に表現・鑑賞する音楽科授業をめざして
～ “初めての音楽” との出会いを通して～

2 主題設定の理由

音楽科は、美しいものや、優れたことに接して感動する心など、児童の豊かな人間性や感性を育てるという大きな役割を担っている。それは、他人を思いやる優しい心、相手の立場になって考えたり共感し合ったり、価値観の違いを認め合ったりすることのできる一人ひとりの温かい心、豊かな心を育てるということである。

そんな大きな役割を担う音楽科と出会う1年生。その出会いを感動的なものにしたいという思いを1年生の担任となり、強く抱いた。

1年生は、小学校に入学して多くのことに興味を持ち、楽しくとりくみ、吸収する時期である。また、様々な体験や遊びを通して、基礎的な音楽性を身に付けていく。だからこそ、音楽科と初めて出会うこの時期に、“音楽の楽しさ”、“感動”、“共有体験”など、みんなで一つの音楽をつくる喜びを十分に感じさせたい。そして、音楽を十分に楽しむ中で、音楽を形づくっている要素に気づかせたい。

初めての音楽との出会いで何よりも大切なことは、音楽を愛好する心情を育てることである。これは、活動そのものを楽しんだり、活動を通して児童が思いや意図をもって音楽を表現したり、想像力を広げながら音楽を聴いたりするなど、音楽に感動したりするような体験を積み重ねることで得られていく。児童一人ひとりが感性を豊かに働かせながら主体的に取り組む態度を大事にし、楽しい音楽活動を展開する中で育てていきたい。

また、音楽に対する感性を育てることも大切である。生活の中に音楽を取り入れ、楽しく体験することによって、音楽に対する感性も磨かれていく。音楽を感覚的に受容して得られる拍感、リズム感、強弱感、速度感などを身に付けさせたいと考える。

さらに、音楽を形づくっている要素などの基礎的な能力にも触れながら、音楽をつくる楽しさやできる喜びを体験させることで、創造的に表現する力を育てていきたい。

これら「音楽を愛好する心情」、「音楽に対する感性」、「音楽活動の基礎的な能力」の3つは密接な関係にある。指導者は、1年生の学習を素地として、学年に応じた力を継続的に育てていく必要がある。

しかしながら、市原市内の小学校には、音楽専科が配置されていないのが現状である。よって、学級担任の力が音楽教育に及ぼす影響がとても大きい。逆に、学級担任だからこそ、他教科と関連を図ったり、個に応じた指導をしたりして、音楽科を中心とした学級経営を行うことができる。

そこで、1年生の学級担任であることを生かし、国語科や図画工作など他教科との関連も積極的に取り入れ、子どもたちが音楽に熱中して心から楽しいと感じる多様な学習活動を展開することで、「児童生徒自らが考え、主体的・創造的に表現・鑑賞する音楽科授業」に迫っていきたいと考え、本主題を設定した。

3 研究目標

初めての音楽との出会いを大切に、児童自らが考え、主体的・創造的に表現・鑑賞する力の素地を育てるための効果的な指導のあり方を探る。

4 研究仮説

<仮説1>

音楽を形づくっている要素を視覚的に捉えられるように工夫することで、児童自らが考え、主体的に表現することができるであろう。

○音楽を形づくっている要素を視覚的に捉えられるように工夫したこと

- ①「たんたんたんうん」などの絵譜 (P6)
- ②「しろくまのジェンカ」の挿絵(影→拍, シャボン玉→リズム)(資料P8)
- ③「ぶんぶんぶん」の挿絵(花→拍, みつばち→リズム)(P3)
- ④グループ活動におけるマグネットの活用(大マグネット, 小マグネット)(P4)
- ⑤メトロノームの活用(針の動きで速度を確認)(資料P7)
- ⑥絵や具体物を使った音楽の仕組みの例(「反復」や「問いと答え」)(P7)

○音楽を形づくっている要素ではないが、視覚的に捉えさせるために工夫したこと

- ⑦言葉の意味を理解し、歌詞の表す情景を想像するための絵や写真(P3)

<仮説2>

生活の中に音楽を取り入れ、楽しく音楽に関われば、音楽表現に対する思いや意図を持ち、創造的に表現することができるであろう。

○他教科と関連した実践

国語 ・「ことばをつくろう」

食べ物言葉集め(いろいろな文字数の食べ物を集める)(P9)

- ・「うたにあわせてあいうえお」拍に合わせて、あいうえおの口形練習
- ・「あさのおひさま」拍に合わせて、詩の音読
- ・「あいうえおであそぼう」拍に合わせて、詩の言葉を楽しむ。
- ・「おむすびころりん」拍に合わせて、ねずみの歌を歌う。

図画工作・国語の「ことばをつくろう」で集めた食べ物の絵を描く(P7)

- ・お買いものバッグ作り(集めた食べ物の絵を入れる)(P9)

生活科・お買いものごっこ(自分の描いた食べ物を買って楽しむ)

算数・「いくつといくつ」リズムで唱える(数の合成, 1と9でごま饅頭10)

体育・準備運動(タンブリンを使ってリズムに合わせて体操する。)

- ・しろくまのジェンカを体育の導入で踊る。

- ・運動会の表現(ダンス)で、拍を意識して練習した。

○常時活動での実践

- ・リズムボックスの活用

- ・号令や指示を音で伝える。(立つ, 座る, 準備, 片付け, 注目)

- ・健康観察(メトロノームで速さを決めて, タンブリンを使用)

- ・今月の歌 体を動かしながら歌う(手話, 歩く…廊下まで使う)

拍を打ちながら歌う(歩く, ハイタッチ, じゃんけん)

曲にあったリズムを打つ, 合いの手を入れて歌う

- ・リズム遊び リズムリレー, リズムでまねっこ(問いと答え)

「〇〇さん」「みなさん」—「はあい。」「もういいかい」—「まだだよ」

健康観察・・・「〇〇さん」—「はい, げんきです。」

給食・・・給食当番「ごはん, ありますか?」—「ありますよ。」

5 研究方法・内容

(1) 方法

音楽科の検証授業を通して、児童自らが考え、主体的・創造的に表現・鑑賞する学習指導のあり方を探る。

研究仮説を検証するにあたり、本校の第1学年(2学級)を対象に授業を展開した。

第1学年 単元名「はくを かんじて りずむを うとう」(全12時間)

検証授業(1)「りずむにあわせて はちを おはなに とめよう」(1組)<仮説1>

検証授業(2)「りずむに のって おべんとうをつくろう」(2組)<仮説1・2>

(2) 内容 (実践記録)

① 検証授業 (1) 「りずむに あわせて はちを おはなにとめよう」 < 仮説 1 >

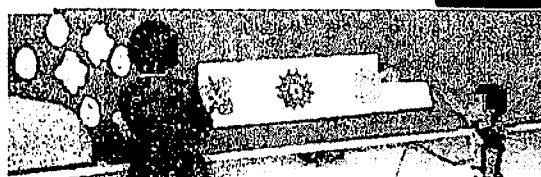
i 本時の目標 ○ 歌ったりリズムを打ったりして、拍の流れを感じ取ろうとしている。

ii 本時の展開 (7 / 12 時間)

過程	時配	○ 学習内容・学習活動 [共通事項]	教員の働きかけ及び留意点 ◎ 評価規準
めあてをつかむ	3	○ 「しろくまのジェンカ」に合わせて歌ったり体を動かしたりして、前時までの学習を想起する。 [音色, リズム, 拍の流れ]	・ 教科書の拡大挿絵を掲示し、しろくまの動作とリズムが対応していることを確認する。 ・ リズムに合わせて体を動かすのが苦手な児童と一緒に教員が体を動かし、拍やリズムを感じさせる。
	8	○ 「ぶんぶんぶん」の範唱を聴き、どんな様子を表す曲か想像する。 ・ 歌ったことあるよ。 ・ はちが楽しそうに飛んでいる曲 ・ お花とはちが出てくる曲	・ 体を動かしたり、歌ったりしながら自由に聴く。

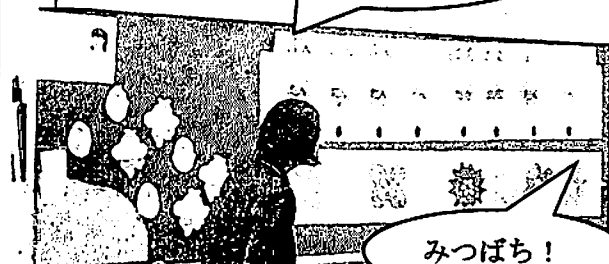
仮説 1
工夫⑦

言葉の意味を理解し、歌詞の表す情景を想像するための絵や写真



仮説 1
工夫③ 挿絵

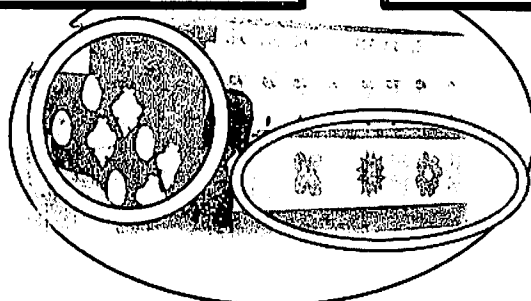
お花にとまるのは、どんなはち?



みつばち!

みつばち・・・リズム

花・・・拍



○ 「ぶんぶんぶん」に合わせて、リズム打ちに挑戦する。



- ・ タンブリンを使って、一定の速度で拍を打ち、拍の流れを意識させるようにする。
- ・ お花とみつばちを提示し、曲の雰囲気を感じながら楽しく歌えるようにする。
- ・ 花を指しながら歌うことで、視覚的に拍をとらえられるようにする。
- ・ 既習のリズムを想起しながら、曲に合うように自由にリズム打ちをさせる。
- ・ 「ぶんぶんぶん」のリズムに合わせてみつばちをお花にとめようと投げかけ、本時のめあてにつなげていく。



・・・リズム (たん)

(正面)



・・・リズム (たた)

(横向き)



・・・はく

(花)

○本時のめあてを知る。

りずむに あわせて はちを おはなに とめよう！

○絵譜を見て、リズム打ちをする。

○みつばちのとめ方を話し合う。

- ・絵譜に合うように、お花にみつばちをとめ、リズム打ちをする。

- ・タンブリンを使って、一定の速度で拍を打ち、拍の流れを意識させるようにする。

- ・グループごとにお花やみつばちを用意し、操作しながら、はちのとめ方を考えたり練習したりできるようにする。

仮説 1

工夫④ マグネットの活用

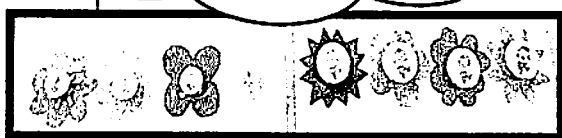


小さいマグネットを2つ置いてみよう。みつばちがちゃんとお花にとまったよ。リズムをみんなで打ってみよう！



(Aパターン

全部置く 大→小)



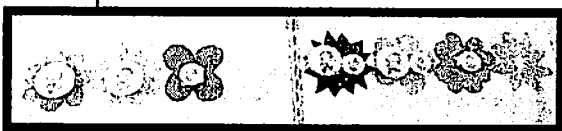
(Bパターン

全部置く 小→大)



(Cパターン

1つの花に大を2つ置く)

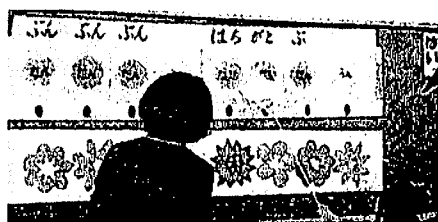


(Dパターン

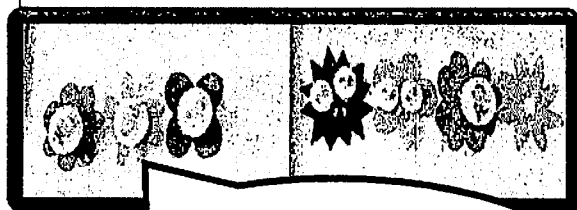
1つの花に大と小を置く)

みつばちが花から落ちそう！！

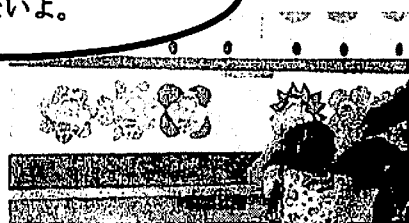
○はちのとめ方を発表する。



おやすみだから、はちさんはとめないよ。



みつばちが、お花にしっかりとまったね！
みつをすることができたね！



- ・「J」と「〇」のリズムのの違いに注目させる。

- ・はちをお花にとめた通りにリズム打ちさせ、絵譜と比較させる。

- ・歌詞のリズムと同じであることを気付かせ、ゆっくりと拍を取りながらリズムを打って確かめるようにする。

- ・〇のリズムが速くならないように助言する。

- ・曲に合わせて、歌いながら手拍子ができるように練習する。

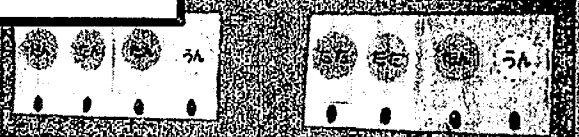
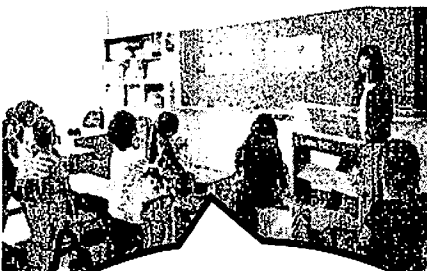
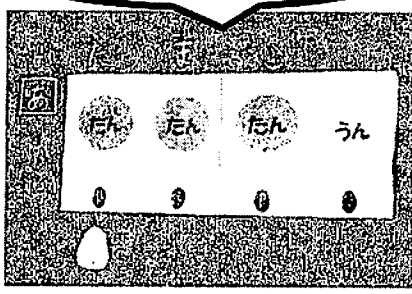
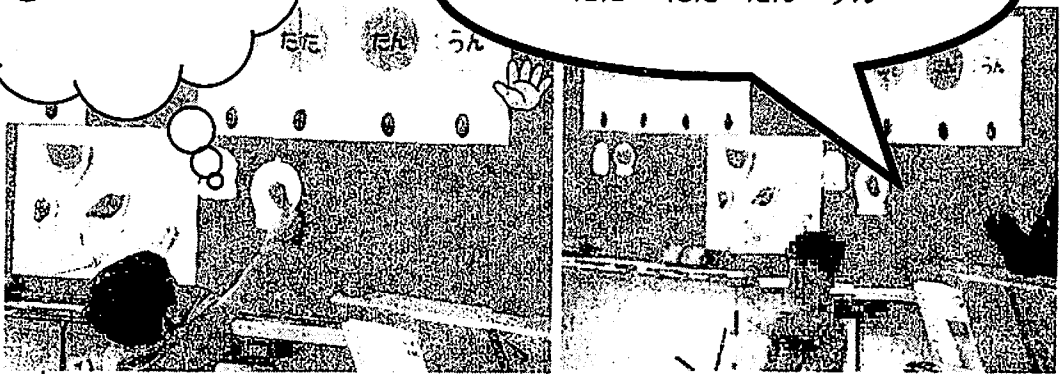
- ・互いのリズムを聴き合い、表現に生かす。

		○正しいリズムを打つ練習をする。 お花の上に ・みつばち1匹 たん (J) 4分音符 ・みつばち2匹 たた (D) 8分音符 ※たんの半分の大きさ ・みつばちなし うん (♪) 4分休符 ・手拍子 ・CDに合わせて ・歌いながら ・カスタネットで たんたんたん うん たたたた たん うん 
深める	10	○いろいろな拍の流れに合わせてリズムを打つ。〔速度〕 ・普通のはちさん (J=96~104) ・のんびりはちさん (ゆっくり) ・あわてんぼうはちさん (速く) 速度が変化しても リズムは同じだね。 たんたんたんうん たたたたたんうん ・どんなみつばちが飛んできたかを楽しく想像し、いろいろな速度で演奏する。速度を変えても拍の流れを意識してリズムを打つようにする。 ・手拍子だけでなく、体全体でリズムを感じ、楽しみながら活動できるような雰囲気作りを大切にする。 ◎範唱を聴いて歌ったり、リズムや拍の流れを感じ取って歌ったりする学習に進んで取り組もうとしている。 (関心) 演奏観察・演奏聴取
まとめる	4	○本時を振り返り、次時の予告をする。 ・速くなっても遅くなくても、はちは2匹とまったよ。 ・「たん」の半分が、「た」だと分かったよ。 ・拍とリズムがわかったよ。 お花にとまったみつばちを 裏返すと... 1匹のはちがたんなんだね。 「たん」の半分が、 ♪ (た) だね。 ・拍の流れに合っていないリズムを取り上げ、絵譜と比較しながら確認する。 ・Dのリズムは、Jを2つに分割したリズムであることを絵譜を分割することで印象付ける。 ・楽器を使って「ぶんぶんぶん」を演奏することを伝え、次時の学習への意欲を高める。

②検証授業(2)「りずむに のって おべんとうを つくろう」<仮説1・2>

i 本時の目標 ○拍の流れを感じ取りながら組み合わせた二つのリズムを打つことができる。

ii 本時の展開 (9/12時間)

過程	時配	○学習内容・学習活動〔共通事項〕	教員の働きかけ及び留意点 ◎評価規準
めあてをつかむ	3	○学習の雰囲気をつくる。 ・なまえあそびをする。 ・ぶんぶんぶんをうたう。 	・何も指示せず歌わせる。 ・たんとたたのリズムに気を付けて歌うよう伝える。 ・リズムカードを(絵譜)を掲示する。 仮説1 工夫① 絵譜 
	10	○本時のめあてをつかむ。 ・はくにあわせて手を打つ。 ・㊦と㊩のリズムに合うことばを選ぶ。[リズム, 拍の流れ]  たんたんたん うん たたたたん うん ・教科書の中の言葉を選んで、拍に合わせて手を打つ。	・リズムボックスを使い、拍の流れを感じとりながら言葉を唱えられるようにする。 ・「たまご」と「めだまやき」の言葉を唱えながらリズム打ち、それをまねするよう伝える。 手とことばがあうね。  ・始めのうちは、拍をゆっくり打ち、子どもたちが拍の流れを感じ取りながら、丁寧に唱えられるようにする。 ・教科書の例を拡大し、黒板に貼る。 おむらいすは ㊩のリズムかな? 「おむらいす ○」 たた たた たん うん 

りずむにのっておべんとうをつくろう

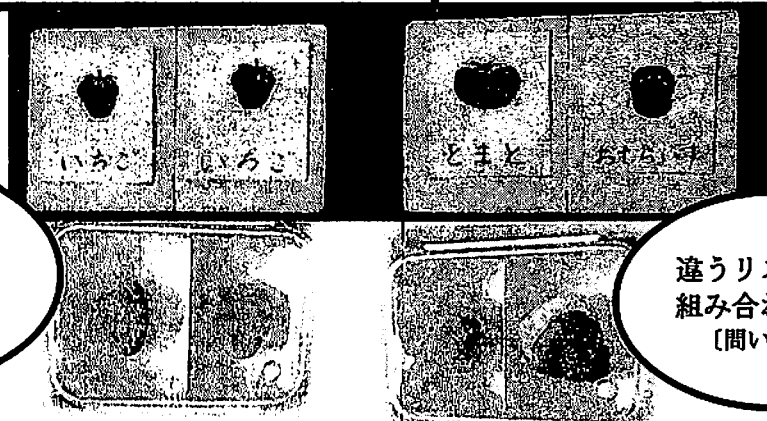
- ・「おむらいす」と「とまと」(ちがう言葉の組み合わせ)を、唱えながらリズムを手で打つ。
- ・「いちご」と「いちご」(同じことばをくりかえす言葉)を、唱えながらリズムを手で打つ。
[拍の流れ、反復、問いと答え]

- ・大きなお弁当箱を2つ見せる。
- ・お弁当箱に「いちご」と「いちご」をいれる。「くりかえし[反復]」
- ・お弁当箱に「とまと」「おむらいす」と入れる。「くみあわせ[問いと答え]」
- ・「くりかえし[反復]」と「くみあわせ[問いと答え]」という1年生にも分かりやすい言葉で音楽の仕組みを知らせる。

仮説1

工夫⑥ 絵や具体物を使った音楽の仕組みの例
[反復・問いと答え]

同じリズムの
繰り返し[反復]



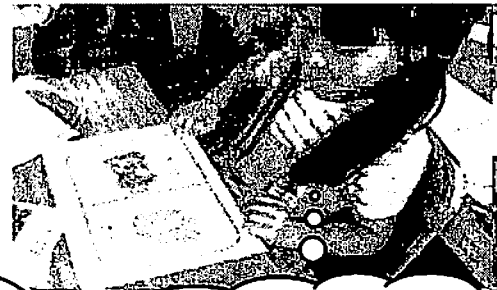
違うリズムの
組み合わせ
[問いと答え]

見
通
し
を
も
つ

7

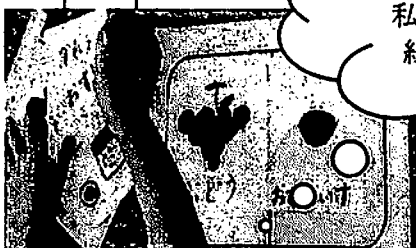
- 好きな食べ物を選んで、組み合わせたリズムを練習する。
- ・教科書以外の食べ物でもできないか考える。
- ・食べ物カードを、お弁当箱に入れる。
- ・言葉を唱えながらリズムを手で打つ練習をする。

- ・図工で描いた好きな食べ物のカードに注目させる。



仮説2

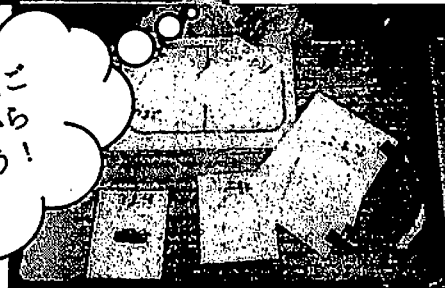
図画工作 食べ物の絵・お買い物バック



私は、違う食べ物を
組み合わせよう！

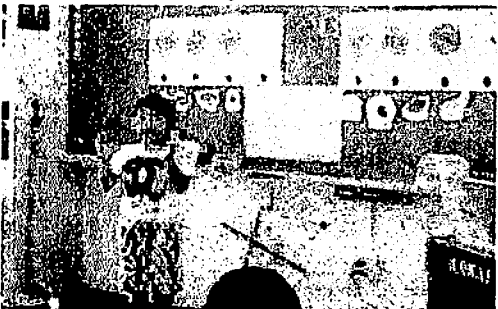
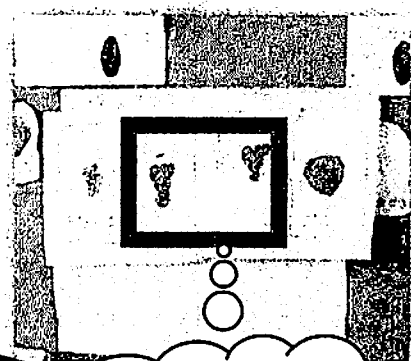
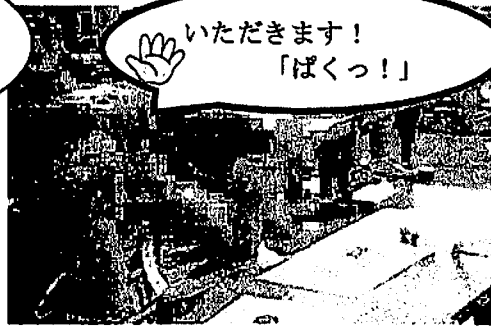
何と何を選ぼうか、
迷っちゃうなあ。

ぼくは、たまご
が好きだから
2回使おう！



- ・⑥と⑦どちらから使ってもよいと伝える。
- ・リズムボックスを使い、拍の流れを感じとりながら言葉を唱えられるようにする。
- ◎言葉のもつリズムを聴き取り、同じリズムの反復や異なるリズムの組み合わせによる違いを感じ取りながら、二つのリズムの組み合わせを工夫し、どのようなリズムをつくるかについて思いをもっている。

【創①発言内容、演奏観察】

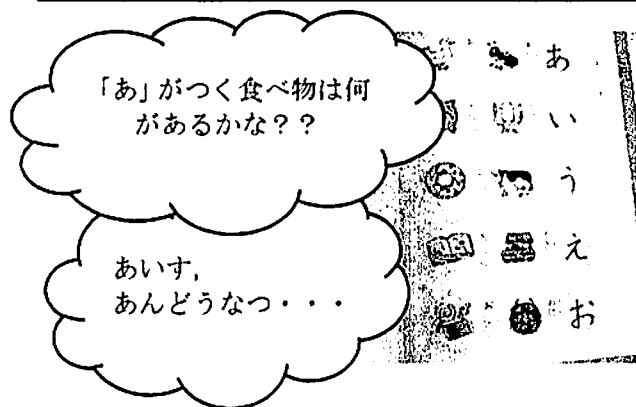
	10	○自分がつくったリズムを紹介する。  ・発表の仕方を練習する。 ・隣どうしで、できたリズムを紹介し合う。 ・学級全体にもできたリズムを発表する。 ・友だちのつくったリズムを、全員で打つ。	・発表の仕方を確認し、練習させる。 ・拍に合わせて練習できるように、リズムボックスを鳴らした状態にする。 ・ことばとリズムが一致するよう、ゆっくりと拍を打つ。 
深める	10	○隣どうしのリズムをつなげる。 ・つなげ方を全体で確認し、練習する。 ・ペアの発表したリズムを全員で打つ。  「かれえ・かれえ」 「いちご・おむらいす」  「おむらいす・ぶどう」 「ぶどう・はんばあく」 ・聴いている人は、教員のまねをして、ペアの発表の後に「たべたいな」や「おいしそう」という言葉を拍の流れに合わせながら唱え、手で打つ。 ・何組かのペアの発表をつなげる。	・ゆっくりとした拍で、リズムボックスを鳴らした状態ですすめる。 ・ペアを取り上げ、つなげたリズムを、全体で練習する。  ここも繰り返しになってるね！  いただきます！ 「ぱくっ！」 ・友だちの発表を聴いて、教員が「たべたいな」や「おいしそう」という言葉を言い、まねをして手を打つよう伝える。

まとめ	5 ○本時をふり返り、次時の予告をする。 ・同じ言葉をくりかえすリズムと、違う言葉を組み合わせるリズムを手で打つ。 ・次は、もっと大きなおべんとうをつくってリズムを打つことを知る。	・リズムボックスの拍の流れに合わせて、今日でてきたおべんとうのリズムを打ち、まねさせる。 ・クラス全員のお弁当をつないで、大きいお弁当をつくることを伝える。
-----	---	---

iii 他教科との関わり

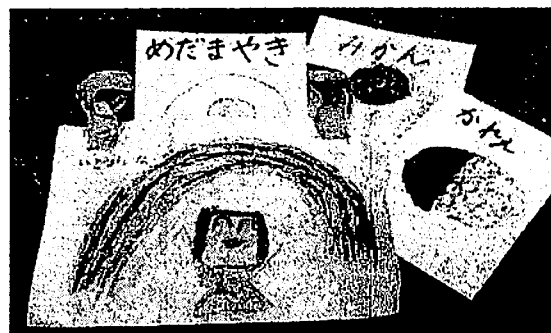
仮説 2

国語「ことばをつくろう」食べ物言葉集め



仮説 2

図画工作 食べ物絵お買い物バック



③ 常時活動での実践



・・・タンブリン

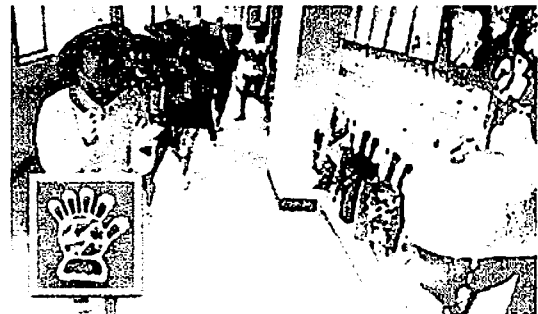


・・・メトちゃん (メトロノーム)

(朝の会) 体を動かしたり、拍を打ったりしながら歌う。



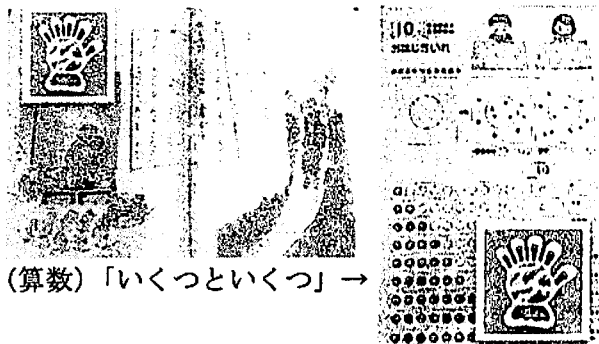
(帰りの会) 教室や廊下を歩きながら歌う。



(健康観察) 拍に合わせて返事をする。
「〇〇さん」「はい、元気です。」



(国語)「おむすびころりん」の音読



(算数)「いくつといくつ」→

6 成果と課題（成果○ 課題●）

<仮説1について>

- 「しろくまのジェンカ」、「ぶんぶんぶん」の挿絵を掲示したことで、拍やリズムを意識して体を動かしたり、歌ったりすることができるようになった。
 - 「たんたんたんうん」などの絵譜を教室に掲示したことで、既習のリズムをいつでも振り返ることができた。さらに、自分で曲に合うリズムを選んで、打つことができるようになった。
 - グループ活動におけるマグネットの活用は、「ぶんぶんぶん」のリズムを考えるための手立てとして有効的であった。
 - 絵や立体的なお弁当を見せたことで、子どもたち自身が音楽の仕組みである〔反復〕や〔問いと答え〕に気づき、音楽づくりの活動に生かすことができた。
 - 4分音符を分割することで、8分音符が半分の長さであることを印象づけることができた。音楽づくりの学習でも、8分音符と4分音符を意識して、リズムを打つことができた。
 - メトロノームを活用し、視覚的に拍を捉えることで、音楽の根幹となる「拍」の存在をしっかりと押さえることができた。規則的に刻まれる「拍」の流れを感じ得し、リズムのずれを感じるようになることができた。「うみ」では、2拍子と3拍子の違いを感じながら、体を動かすことができた。
- 「視覚的に捉える」ことを「合理的配慮」として考えると、今後は、支援を要する児童への具体的な指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に考えていかなければならない。
 - 今回の実践は、グループ活動が主体だったが、「個人→集団→個人」という活動の流れだと、さらに主体的で対話的なとりくみになっていくのかもしれない。
 - 音楽を学級担任が行っている市原市の特徴を考えると、今回の実践で使った教材・教具を市原市全体で共有していくにはどうしたらよいか、検討していくことが必要である。

<仮説2について>

- 生活の中に音楽を楽しく取り入れ、継続したことで、自然と拍感やリズム感が身に付いてきた。そのため、音楽づくりでも、自信をもって自分の思いや意図を表現することができた。
 - 国語や図画工作と音楽づくりを関連させたことで、意欲的に音楽づくりにとりくむことができた。さらに、自分が表現したいお弁当になるように、思いや意図をもって楽しく活動することができた。
 - できたリズムを全員でつなげることで、みんなで一つの音楽をつくる喜びを味わうことができた。
 - 常時活動の積み重ねによって、曲が流れると自然に体が動き、拍子にあわせてリズムを打ち、音楽を楽しむ姿が見られた。
- 「たんたんたんうん」「たたたたたんうん」にあう、言葉を選ばせたが、実際出てきた言葉には、それ以外の言葉も多かった。拍の流れに合えばよいのか、リズムにあう言葉を選ばばよいのか、今後検討していく必要がある。
 - 日常生活で音楽を取り入れることについて、本市には音楽専科がいないため、学級担任にこれを継続してもらうための伝達の仕方や手立てが、今後の課題である。



資料 1	教材について・・・・・・・・・・P1 教育芸術社 第1学年「はくをかんじてりすむをうとう」
資料 2	指導案（抜粋）・・・・・・・・・・P2～
資料 3	指導計画（実践）・・・・・・・・・・P7～
資料 4	振り返りワークシート・・・・・・P10～



資料1 教材について

第1学年 「はくをかんじてりすむをうとう」(教育芸術社)

「じゃんけんぽん」(歌唱, 器楽) 芙龍明子 作詞/橋本祥路 作曲

じゃんけん遊びを題材にした曲。子どもたちにとって身近なじゃんけん遊びの体験を通して, ♪|♪♪のリズムを学習することができる。

「みんなであそぼう」(歌唱, 器楽) 長井理佳 作詞/長谷部匡俊作曲

4分音符の七つ打ちの学習のために作曲されたオリジナル教材。4分音符と4分休符を組み合わせたシンプルな旋律に合わせて手拍子をしたり打楽器を打ったりすることで, 拍の流れを感じ取りやすい。

「しろくまのジェンカ」(歌唱, 器楽, 鑑賞) 平井多美子 日本語詞 ケン ウォール 作曲

映画やテレビなどを中心に活躍しているスウェーデンの作曲家ケン ウォールの作品。ジェンカとは, フィンランドで生まれたフォークダンスで, そのステップの様子から「バニーポップ」とも呼ばれる。曲全体がジェンカのリズムによって統一されている。

「ぶんぶんぶん」(歌唱, 器楽) 村野四郎 日本語詞/ボヘミア民謡

原曲は「Summ, Summ, Summ Bienchena(ブン, ブン, ブン 蜂蜜)」というタイトルのボヘミア民謡。ボヘミアは現在のチェコ共和国北西部に当たり, 地理的にドイツ文化の影響を強く受けた地域である。

「ことばでリズム」(音楽づくり)

言葉のもつ自然なリズムを通して♪や♫に気付いたり, 拍の流れを感じ取って言葉によるリズム遊びをしたりしながら, 基本的なリズムのまとまりである, ♪|♪♪や♫♫|♪♪の定着を図るとともに, 「くりかえし(反復)」や, 「くみあわせ(問いと答え)」という仕組みを生かした音楽づくりをすることができる教材である。拍の流れを感じ取って, つくったリズムを次々とリレーしながら表現するというゲーム感覚の楽しい学習活動を展開することができる。

「うみ」(歌唱) 文部省歌/林柳波 作詞/井上武士 作曲

昭和16年に「ウタノホン(上)」に発表されて以来広く親しまれ, 歌い継がれている。この曲は昭和52年に第1学年の歌唱共通教材として指定されたが, 昭和55年の教科書改訂の際に, 3番の歌詞中の「うかばして」が国語科などとの関連も考慮して, 現在のように「うかばせて」に改められた。

資料 2

第1学年 音楽科学習指導案

1年1組指導者 小野田 瑞枝

1年2組指導者 栗田 美智子

1 題材名 はくをかんじてリズムをうとう (12時間)

教材名 *省略(資料1)

学習指導要領との関わり *一部省略

A表現

(1) 歌唱 ア, イ

(2) 器楽 ア, ウ

(3) 音楽づくり ア, イ

B鑑賞

イ

【共通事項】

ア(ア) 音色 リズム 強弱 拍の流れ フレーズ

(イ) 反復 問いと答え

2 題材について

(1) 題材の目標

- ・歌ったり体を動かしたりしながら、拍の流れを感じ取る。
- ・リズムの違いに気づき、拍の流れを感じ取ってリズムを演奏したり、リズムに合う言葉を選び組み合わせる表現したりする。

(2) 題材観

本題材は、拍の流れを感じ取って、基本的なリズムパターンを楽しみながら表現することに重点を置いている。拍の流れやリズムに対する感覚、表現の技能を身に付けるために、歌うこと、聴くこと、体の動きを使って表現することなど、多彩な活動を通して体験するようにしていく。

まず、「じゃんけんぽん」では、子どもたちが日常的に触れることの多いじゃんけん遊びの動きを通して、4分音符と四分休符が組み合わされた最も基本的なリズムを表現する。次に、「みんなであそぼう」「しろくまのジェンカ」では、よりまとまりのあるリズム、そして「ぶんぶんぶん」では、拍を分割することによって生じる8分音符を含むリズムというように段階的にリズム学習を進めていく。「ぶんぶんぶん」は歌詞のリズムと八分音符のリズムが同じであるため、「ㇿㇿ」のリズムを無理なく演奏できるようになっている。

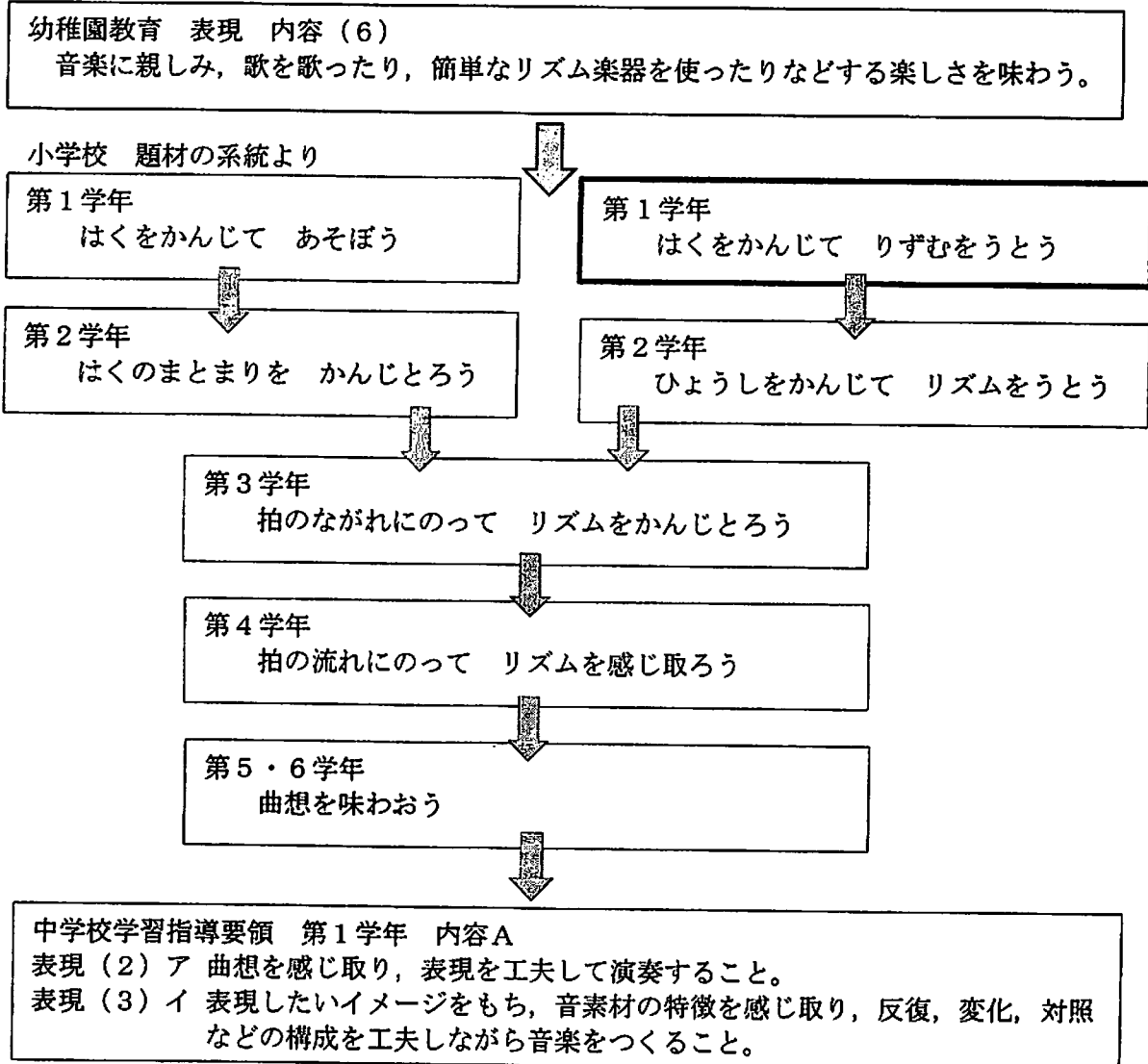
「ことばでりずむ」では、基本的なリズムのまとまりの定着を図るとともに「くりかえし(反復)」や「組み合わせ(問いと答え)」という音楽の仕組みについて触れていく。音遊びをしながら、楽しくリズム感を養っていくとともに、作ったリズムを友だちとつなげることで拍の流れを意識した音楽づくりの第一歩となる。

題材を通して、体を動かす体験やルールのある音遊びを行い、拍の流れ、リズムの違いやまとまりを感じ取らせることを大切にしていく。そして、拍の流れやリズムに対する感覚を楽しみながら育て、音楽表現する力を育てていく。

(3) 教材観

*省略(資料1参照)

(4) 市原市 幼・小・中一貫教育の観点から



幼稚園教育要領の表現では、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。」とある。幼児期は体験活動が中心の時期であり、周りの人や物、自然などの環境に体ごとに関わり全身で感じるなど、活動と場、体験と感情が密接に結びついている。

そこで、低学年の時期においても、体を動かす体験や音楽遊びなどの活動を取り入れていくことで、より豊かで広がりのある表現活動につながっていく。特に、1年生は、音楽科との初めての出会いである。日頃から、体を動かしながら子どもたちが音楽に熱中し、心から楽しいと感じる学習を展開することで、「音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養っていく。」ことに迫っていききたい。また、国語科や図工など他教科との関連も積極的に取り入れながら、音楽に対する豊かな感性や表現する力を養っていききたい。

この低学年の本題材で身に付ける「拍」の体感からリズム打ちの活動へ向けて、段階的に学習を展開する。そして、上の学年で学習する拍子をとらえることや、合唱・合奏の活動をスムーズに進められるようにしていく。

(5) 児童の実態 1組 (男子15人 女子17人 計32人)

2組 (男子16人 女子16人 計32人)

※2人に学級補助員が1人ついている。

①本題材を学習するにあたり、以下の調査を実施した。(5月24日実施)

(④～⑨授業後の実態 実施日 7月20日)

意識調査	① 音楽は好きですか。 その理由 (複数回答可) 〈挙手・聞き取り〉	1組	好き 29人 ・ピアノが好きだから (23) ・歌うのが好きだから (15) ・大きな声が出せるから (10) ・ピアノを習っているから (6) ・きれいな声で歌えるから (6)	嫌い 3人 ・歌いたい歌がないから (2)
		2組	好き 26人 ・歌うのが好きだから (18) ・ダンスが楽しいから (6) ・楽しいから (2)	嫌い 6人 ・歌うのが苦手だから (3) ・踊るのが苦手だから (3)
	②リズムの学習は好きですか。 その理由 (複数回答可) 〈挙手・聞き取り〉	1組	好き 25人 ・楽しいから (13) ・リズムがきれいだから (3) ・色んなリズムをやりたいから (2)	嫌い 7人 ・手が痛いから (3) ・面白いけど遅れるから (1) ・ずれると変な感じだから (1)
		2組	好き 30人 ・リズムをうつのが楽しいから (20) ・みんなでやると楽しいから (8) ・楽しいから (2)	嫌い 2人 ・タイミングが分からないから (2)
	③「ぶんぶんぶん」を知っていますか。(歌えますか。)	1組	知っている。(歌える。) 23人 (22人)	知らない。 9人
		2組	知っている。(歌える。) 22人 (22人)	知らない。 10人
拍の流れ	④拍を打つ 4拍子の拍に合わせて拍を 続けて打つ。〈観察〉	1組	○ (拍を打てる) 23人→29人	△ (拍の遅れからずれる) 7人 →3人 × (拍を打てない) 2人 →0人
		2組	○ 26人→28人	△ 2人 →1人 × 4人 →3人
	⑤歩きながら拍を打つ。 「さんぽ」に合わせて歩 く。手拍子を打つ。〈観察〉	1組	○ 21人→27人	△ 9人 →4人 × 2人 →1人
		2組	○ 28人→27人	△ 2人 →3人 × 2人 →2人
拍に合わせてリズムを打つ	⑥拍に合わせてリズムを打 つ。 (JJJJ) 〈観察〉	1組	○ (拍に合わせて リズムを打てる) 26人→27人	△ (リズムは打てる) 4人 →5人 × (リズムを打てない) 2人 →0人
		2組	○ 20人→28人	△ 3人 →3人 × 9人 →1人
	⑦拍に合わせてリズムを打 つ。 (JJJJ) 〈観察〉	1組	○ 28人→25人	△ 3人 →7人 × 1人 →0人
		2組	○ 25人→28人	△ 5人 →3人 × 2人 →1人
	⑧拍に合わせてリズムを打 つ。 (JJJJ) 〈観察〉	1組	○ 25人→27人	△ 5人 →4人 × 2人 →1人
		2組	○ 29人→30人	△ 1人 →1人 × 2人 →1人

⑨拍に合わせてリズムを打つ。 （ ） （ ） （ ） 〈観察〉	1組	○ 15人→27人	△ 15人 →3人	× 2人 →2人
	2組	○ 20人→25人	△ 10人 →1人	× 2人 →6人

②考察

意識調査の結果から、音楽を「好き」と感じている児童が多い。また、リズムの学習に関しても、「好き」「楽しい」と好意的に感じている児童が多いことが分かった。入学当初から今月の歌や音楽の時間に、楽しく歌ったり、体を動かしたり、リズムを手拍子で打ったりしてきたこと、運動会のダンスが楽しい思い出となっていることなどが、このような結果につながっていると考えられる。一方、リズムの学習は「嫌い」と答えた児童の理由の中に「面白いけど遅れるから」、「ずれると変な感じだから」、「手をうつタイミングが分からないから」という意見があった。これは、「拍を感じ正しいリズムを打ちたい」という願いが込められているとも捉えられるのではないだろうか。この児童は、拍を感じてリズムを打つことができるようになれば、好意的な答えに変容するのではないかと考えられる。

(5) 指導観

1年生は、さまざまな体験や遊びを通して、音楽性を身に付けていく発達段階であり、自然にリズムに対する感覚を身に付けていくのが効果的である。だからこそ、音楽科と初めて出会う時期に、“みんなでリズムを合わせる楽しさ”，“ぴたりとリズムが揃った時の感動”，色々なリズムを共有する経験”など、みんなで一つの音楽をつくる喜びを十分に感じさせたい。音楽を十分に楽しむ中で、音楽を形作っている要素を実感させていきたい。

まずは、音楽の根幹となる「拍」の存在をしっかりと押さえる。規則的に刻まれる「拍」の流れを感得し、リズム打ちの活動へと段階的に学習を展開していくために、前題材「はくをかんじてあそぼう」の段階から、拍の流れを感じ取って表現する活動を十分に体験させておきたい。拍の流れを意識させるために、教員は一定の速度で拍を打ち、常に子どもたちに一定の拍の流れを意識させていく。その時に、メトロノームの針の動きから、拍を視覚的に押さえたり、リズムボックスを活用したりしていきたい。この土台の上で「拍の流れを感じ取る」感覚や「拍の流れにのって歌ったり演奏したりする」という表現の能力を育てていく。

次に、リズム指導や演奏の際にも、常に拍の流れを意識できるように、指導者が手拍子や打楽器で拍打ちをし、それに合わせて児童がリズム表現に取り組めるように指導していきたい。また、リズムを確実にとらえ、体感することができるように、段階的に指導していく。例えば、手拍子やリズム唱の活動を通して拍の流れやリズムに対する感覚を確実に身につけ、その上でカスタネット等の楽器を用いるようにしていきたい。

「ぶんぶんぶん」では、拍とリズムを視覚的にとらえさせるように、お花を「拍」、はちを「リズム」として提示する。1つのお花に1つのハチがとまるのは4分音符（たん）のリズム、2つのハチがとまるのは8分音符（たた）のリズム、ハチがとまらないのは4分休符（うん）のリズムだということを視覚的に示す。これによって、初めて体験する8分音符（たた）のリズムは、4分音符を2等分したリズムだと捉えさせたい。8分音符のリズムを認識できたら、さまざまなパターンでリズム打ちを行い、リズムの感覚を身に付けさせたい。

かえす「くりかえし（反復）」や、違う言葉を組み合わせる「くみあわせ（問いと答え）」という、音楽の仕組みも意識させたい。そして、リズムに対する感覚と拍の流れにのって演奏する技能を楽しみながら育てていきたい。この際に、学級担任が音楽を指導していることを生かし、国語では言葉集めの学習、図工では、好きな食べ物を絵に描く活動との教科横断的な関連を随時図り、つけたい力を明確にしながら音楽のおもしろさを十分に楽しませていきたい。このように、本題材の積み重ねの中で、拍感、リズム感覚を身につけさせていきたい。

3 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
① 範唱を聴いて歌ったり、♪ ♪ のリズムや拍の流れを感じ取って歌ったりする学習に進んでとりくもうとしている。 ② 自分の歌声や発音に気を付けて歌う学習に進んでとりくもうとしている。 ③ 身近な楽器に親しみ、音色に気を付けてリズムを演奏する学習に進んでとりくもうとしている。 ④ 歌詞の表す情景を想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌う学習にとりくもうとしている。	① 言葉のもつリズムを聴き取り、同じリズムの反復や異なるリズムの組み合わせによる違いを感じ取りながら、二つのリズムの組み合わせを工夫し、どのようなリズムをつくるかについて思いをもっている。 ② 歌詞の表す情景を想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりして表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願いをもっている。	① 範唱を聴いたり絵譜を見たりして、カスタネットを演奏している。 ② 範唱や範奏、伴奏などを聴いたり、絵譜を見たりして、拍の流れを感じ取って歌ったり、打楽器を演奏したりしている。 ③ リズムに合う言葉を見付け、拍の流れを感じ取ってリズムをつくっている。	① リズムや拍の流れを聴き取り、それらの動きが生み出す良さや面白さを感じ取って、体を動かしながら楽曲全体にわたる気分を楽しんで聴いている。

4 指導計画及び評価計画（12時間扱い）

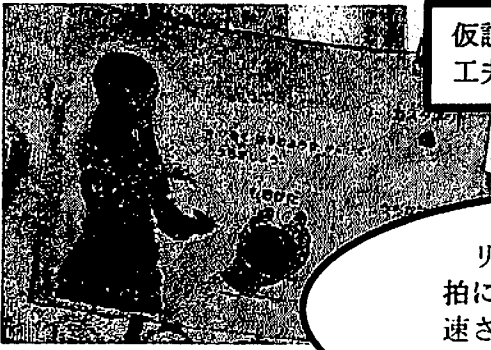
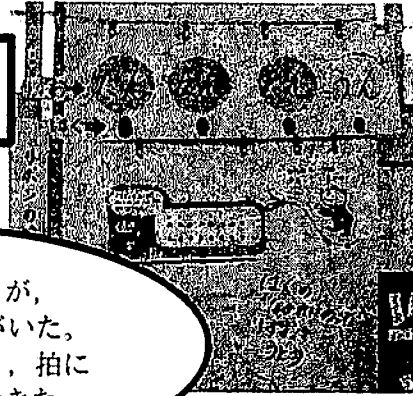
*省略（資料1～参照）

5 本時の指導

*省略（P3～参照）

資料 3

○指導計画（12時間扱い）

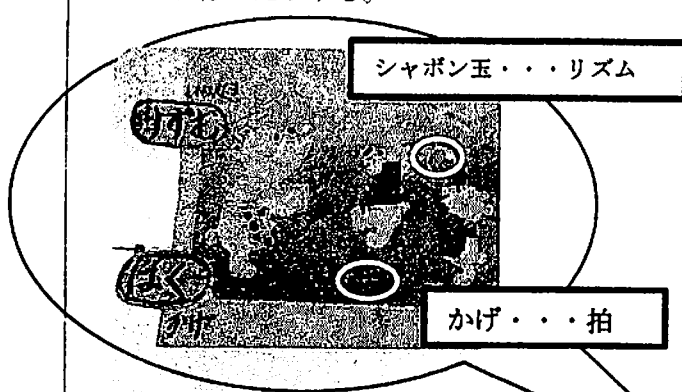
時配	○学習内容・学習活動	○児童の様子
第一次（二時間）	ねらい：拍の流れを感じ取って ♪ ♪ ♪ ♪ のリズムを演奏することができる。 ○拍の流れを感じ取って、「じゃんけんぽん」の歌を体の動きをつけて歌う。 ・拍の流れを感じ取って、歌の終わりでじゃんけんをしながら歌う。 ○拍の流れを感じ取って、 ♪ ♪ ♪ ♪ のリズムを演奏する。 ・カステネットの持ち方と打ち方を知る。	○歌詞の内容が、 "ぐう ぐう ぐう" "ちょき ちょき ちょき"など動作化しやすいものだったので、自然と歌いながら動きをつけている児童が多かった。
	仮説 1 工夫① 絵譜  リズムは打てるが、 拍に合わない子がいた。 速さを遅くすると、拍に 合わせることができた。 	
第二次（二時間）	ねらい：拍の流れを感じ取りながら、 ♪ ♪ ♪ ♪ のリズムを演奏することができる。 ○ ♪ ♪ ♪ ♪ のリズムを感じ取りながら表現する。 ・範唱を聴いて、拍の流れを感じながら歌う。 ・拍の流れを感じ取って、明るい声で歌う。 ○ ♪ ♪ ♪ ♪ を、リズム唱したり手拍子やカステネットを打ったりする。	○指導用のCDの範唱に合わせて、自然に体を動かしながら楽しく歌うことができた。 ○音楽に合わせて手拍子をしたり、カステネットを打ったりして、リズムや拍の流れにあわせて動く児童が多かった。
	仮説 1 工夫⑤ メトロノームの活用  タンブリン メトロノームを使って拍を視覚的にとらえさせる。速度も意識していた。 常に拍を打てるように、教室にタンブリンを用意した。児童が進んで打つようになった。  メトちゃん	

第三次 (二時間)

ねらい：♪♪♪♪♪ のリズムを感じ取りながら、音楽を楽しんで聴いたり、リズムを演奏したりすることができる。

○♪♪♪♪♪ のリズムを感じ取りながら、「しろくまのジェンカ」の歌を楽しんで聴く。

- ・音楽に合わせて自然に体を動かしながら聴く。
- ・拍の流れを感じ取ってリズム打ちしながら、歌ったり聴いたりする。



○拍の流れを感じ取って、♪♪♪♪♪ のリズムを演奏する。

- ・絵譜を見て手拍子やカスタネットでリズムを打つ。
- ・歌の組とリズム打ちの組に分かれて、歌ったり演奏したりする。

○自由に体を動かしながら、楽しく聴くことができた。

○自発的に拍を打ったり、リズムを打ったりする子もいた。



○教科書の挿絵の、しろくまの動作と♪♪♪♪♪ のリズムが対応していることに気がついた。

仮説 1
工夫② 挿絵



しろくまがシャボン玉を割っている動作が“たん” (J) になる。

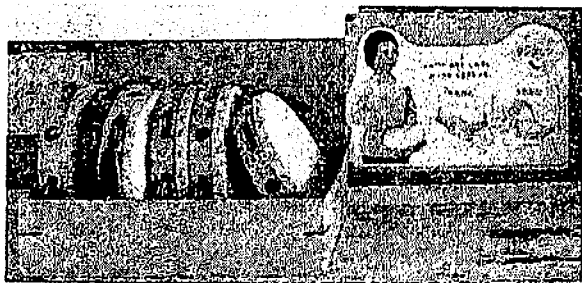
第四次 (二時間) 本時 (小野田)

ねらい：拍の流れを感じ取って、リズムを演奏したり、歌ったりすることを楽しむことができる。

※本時は省略 (P3～5)

○教科書を見ながら、タンブリンの正しい持ち方と打ち方を確認するようにし、拍の流れを感じ取ってリズムを打つようにする。

- ・互いの声や音を聞きながら、拍の流れを感じ取って歌ったり演奏したりするように促す。
- ・拍の流れを意識しやすくするために、指導者は子どもたちと音色の違う楽器 (タンブリン) を使って拍打ちするとよい。



仮説 1
工夫③ 挿絵



はぶのあはぶ はぶのおはぶ
ちんばさちん ちんはいちん ぶん
がぶらつが がらけが ぶん
とんがゆとん とんがのとん ぶん
ぶゆきぶ ぶさまぶ ぶん
ふれらふん ぶんわ ぶん
んるさん んに ぶん
よら よに

第五次 (二時間) 本時(栗田)	ねらい：拍の流れを感じ取って、言葉でリズム遊びをしたり、つくったリズムをつないで楽しんだりすることができる。 ※本時は省略(P6～9) ○前時でつくったリズムをグループや学級全体でつないでリズムをつくる。 (グループでつなげている様子)
第六次 (二時間)	ねらい：3拍子の拍の流れを感じ取り、歌詞の情景を想像しながらのびのびと歌うことができる。 ○海の情景を思い浮かべながら範唱を聴いたり歌ったりする。 ・歌のリズムを手拍子で打ち、2拍子との違いに気付く。 ・3拍子の拍の流れを感じ取って、体の動かし方を工夫しながら歌う。 ○3拍子の拍の流れを感じ取り、歌詞の情景を想像しながら、のびのびと歌う。 ・歌詞の内容から、強弱や表情を工夫して歌う。 ・歌詞の情景を想像しながら、のびのびと歌う。 ・休符をしっかりと感じるようにする。 ・決めた動作をつけながら歌う時も、拍の流れを感じ取るよう助言する。 ・“つきが のぼるし ひが しずむ”の意味について説明する。 ○範唱を聴きながら、3拍子の拍の流れに合わせて腕や体を動かしていた。 A 児「はくがずれてた。」 B 児「リズムに合っていない」 C 児「新しいうみのリズムをつくりたい。」

資料 4

振り返りワークシート

(H29.7月調査)

児童の実態

(1組 男子15人 女子17人 計32人)

(2組 男子16人 女子16人 計32人)

※2人に学級補助員が1人ついている。

はくのはがれにのって、りすむさうとう

はん はん はん

1. じゆんは たのしかった ですか？ あてはまるのたに いうをゆりましよう。

😊 😊 😐 😞

2. どんとこうが たのしかったですか？

()

3. はん はん はん はん はん はん のりすむさうとうに のりすむさうとうを はんをはんはにたのたよう。

どのりすむさうとうを たのしかったか えらびましよう。

あ はん はん はん はん はん はん

い はん はん はん はん はん はん

う はん はん はん はん はん はん

4. のりすむさうとうに のりすむさうとうを つくることが たのしかったか？

あ はん はん はん はん はん はん

い はん はん はん はん はん はん

う はん はん はん はん はん はん

5. はんは たのしかったはんを つくることが たのしかったですか？

😊 😊 😐 😞

6. どんとこうが たのしかったですか？

()

7. のりすむさうとうに のりすむさうとうを つくることが たのしかったか？

はんをはんはにたのたよう。

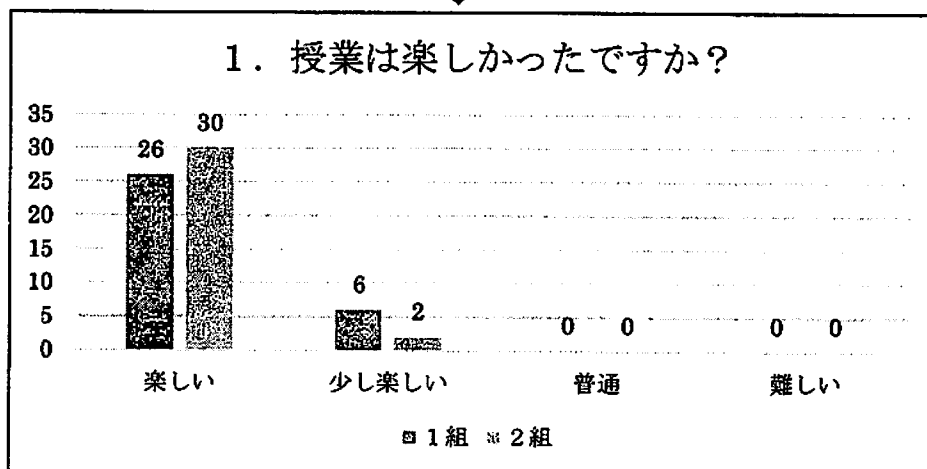
1 授業は楽しかったですか？

1. じゆんは たのしかった ですか？ あてはまるのたに いうをゆりましよう。

😊 😊 😐 😞

1. じゆんは たのしかった ですか？ あてはまるのたに いうをゆりましよう。

😊 😊 😐 😞



2 どんなところが楽しかったですか？

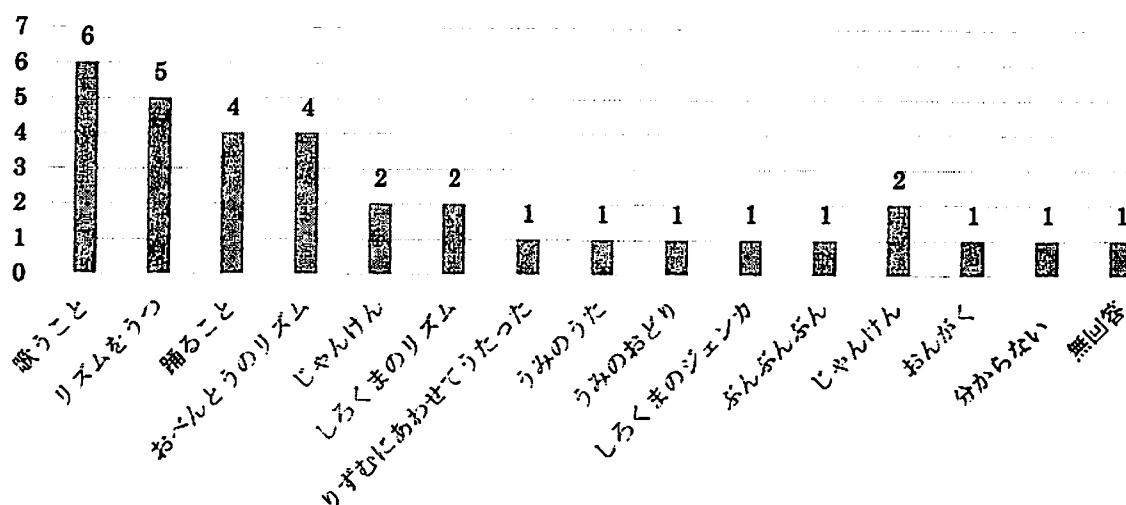
2. どんなところが 楽しかったですか？

(じゃんけんが たのしかったです)

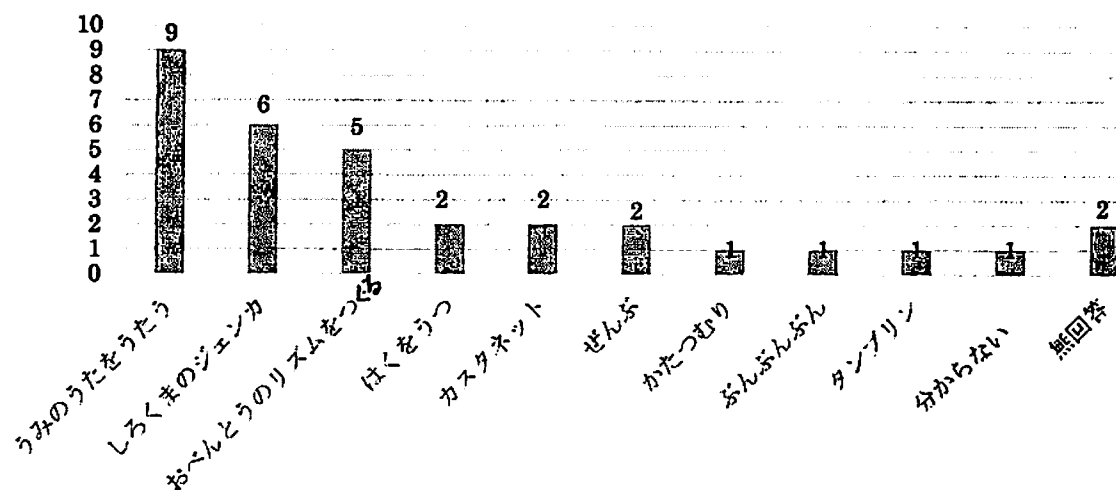
2. どんなところが 楽しかったですか？

(はくが たのしかったです)

2. どんなところがたのしかったですか？ (1組)



2. どんなところがたのしかったですか？ (2組)



3 “ぶんぶんぶん はちがとぶ” のリズムにあわせて、はちをお花にとめよう。

3. ぶん ぶん ぶん はちがとぶ のりずむにあわせて はちをお花にとめよう。

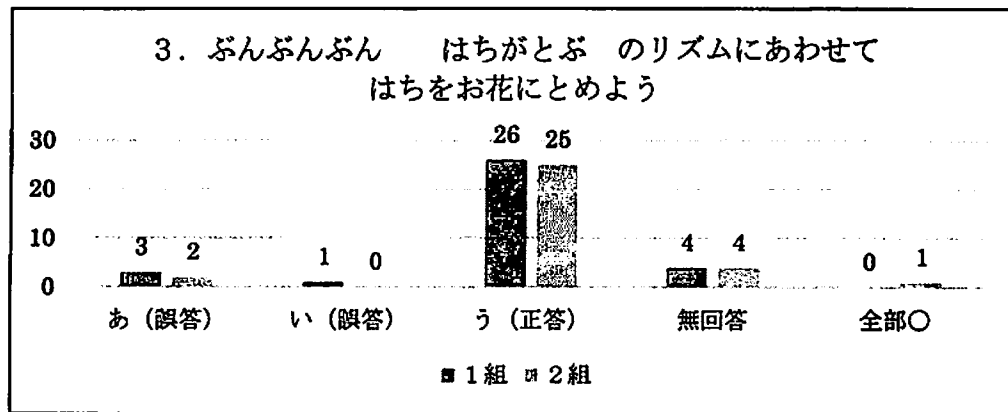
どのりずむがたのしいか えらびましょう。

あ

い

う

あ 「しろくまのジェンカ」
い 「みんなであそぼう」
う 「ぶんぶんぶん」



4 リズムにのって、お弁当をつくることができましたか？

4. リズムにのって お弁当をつくること が できましたか？
あ と い のリズムにあう ことをかいてみよう。

あ

たん	たん	たん	うん
た	あ	こ	うん

い

たん	たん	たん	うん
たん	たん	たん	うん

<無回答>
あ 9人
い 16人

<間違っあてはめていた>
あ 0人
い 2人

4. リズムにのって お弁当をつくること が できましたか？
あ と い のリズムにあう ことをかいてみよう。

あ

たん	たん	たん	うん
たん	たん	たん	うん

い

たん	たん	たん	うん
たん	たん	たん	うん

4. リズムにのって お弁当をつくること が できましたか？
あ と い のリズムにあう ことをかいてみよう。

あ

たん	たん	たん	うん
たん	たん	たん	うん

い

たん	たん	たん	うん
たん	たん	たん	うん

4. リズムにのって お弁当をつくること が できましたか？
あ と い のリズムにあう ことをかいてみよう。

あ

たん	たん	たん	うん
たん	たん	たん	うん

い

たん	たん	たん	うん
たん	たん	たん	うん

4. リズムにのって お弁当をつくること が できましたか？
あ と い のリズムにあう ことをかいてみよう。

あ

たん	たん	たん	うん
たん	たん	たん	うん

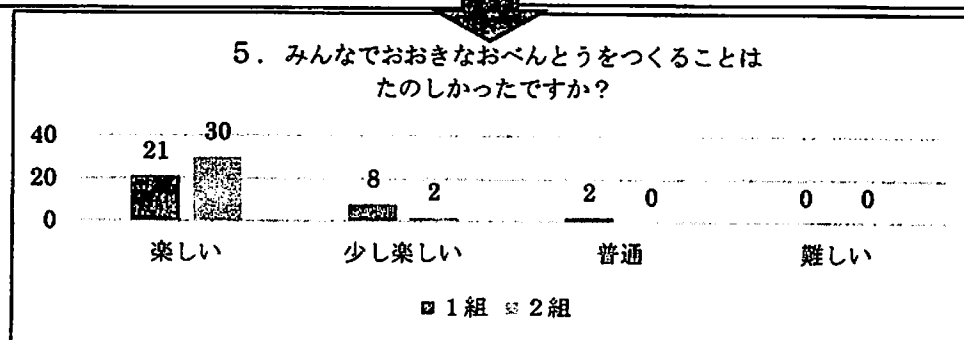
い

たん	たん	たん	うん
たん	たん	たん	うん

5 みんなで大きなお弁当をつくることは、楽しかったですか？

5. みんなで お弁当はお弁当をつくることはたのしかったですか？

😊 😊 😊 😊



6 どんなところが楽しかったですか？（お弁当の授業の中で）

6. どんなところが たのしかったですか。
 (いぶんのリズムを表現した) リズムを表現した

(いぶんのリズムを表現したこと)

6. どんなところが たのしかったですか。
 (リズムを打った) リズムを打った

(リズムを打ったこと)

6. どんなところが たのしかったですか。
 (みんなでお弁当を) つなげたのがたのしかったです

(リズムがぜんぶつながったこと)

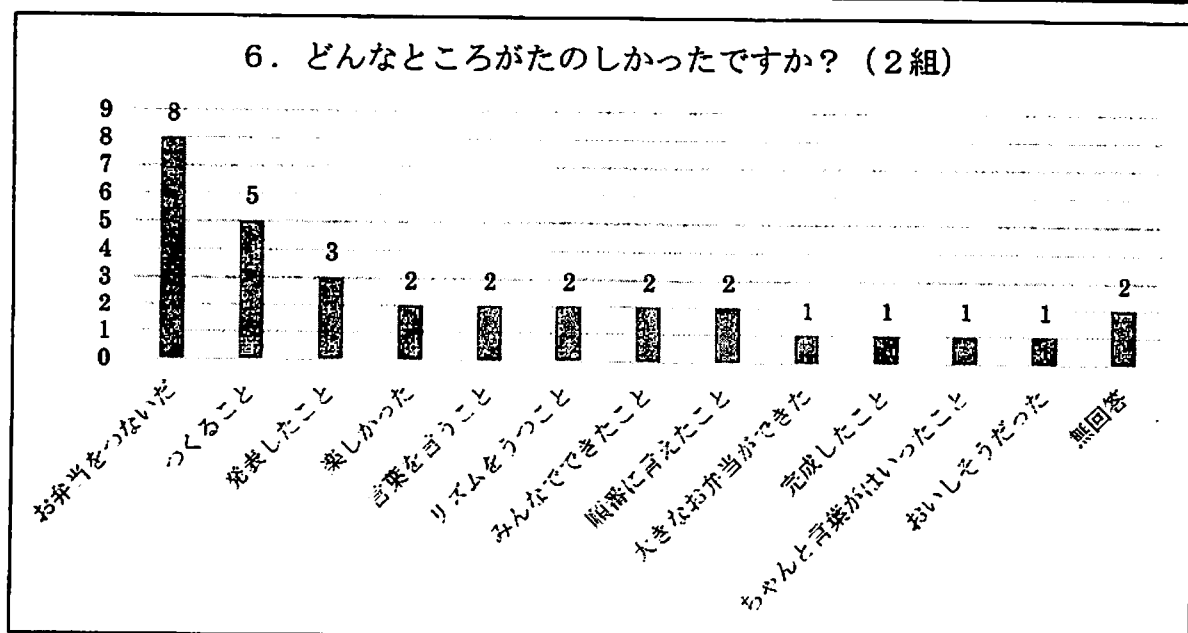
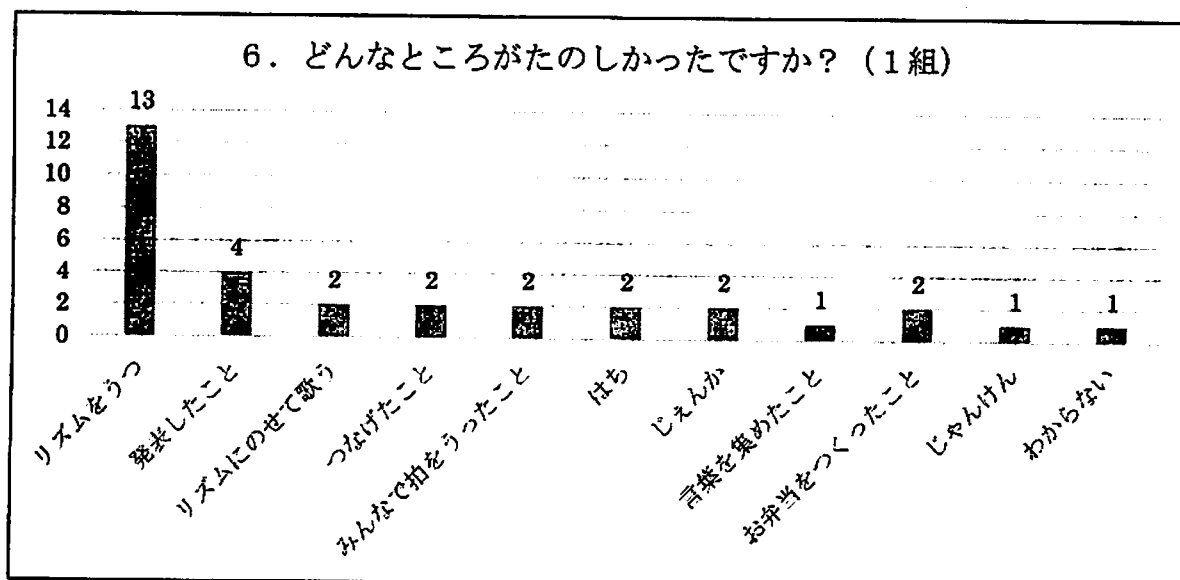
6. どんなところが たのしかったですか。
 (ぜんぶつながったことがたのしい)

6. どんなところが たのしかったですか。
 (みんなでお弁当をつなげて) はくた

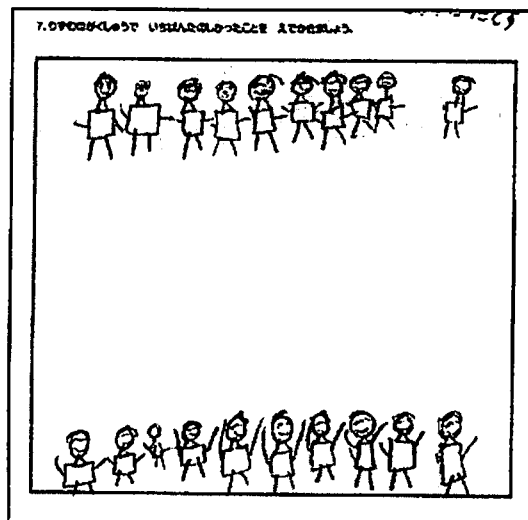
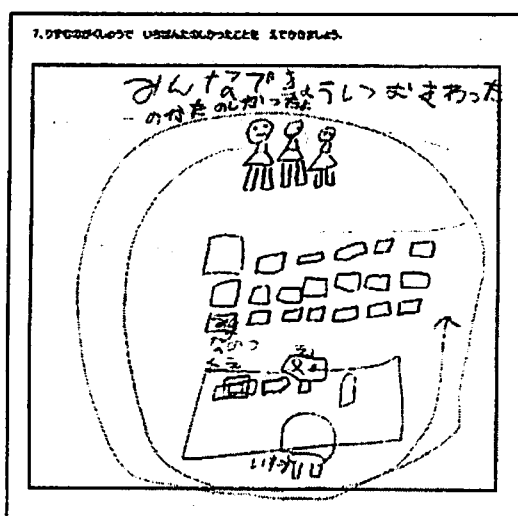
(拍《リズム?》をたたいたこと)

6. どんなところが たのしかったですか。
 (おおきなお弁当が) できたのがたのしかったです

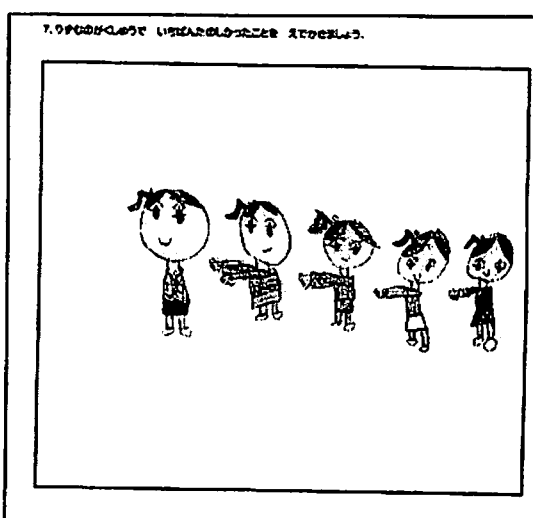
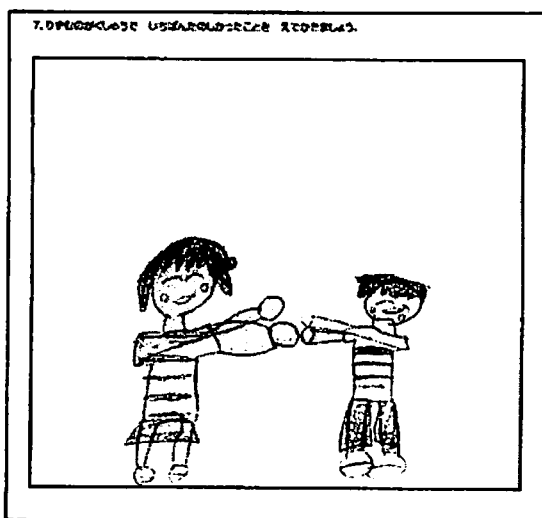
(大きなお弁当になったこと)



7 リズムの学習で、1番楽しかったことを絵で書きましょう。

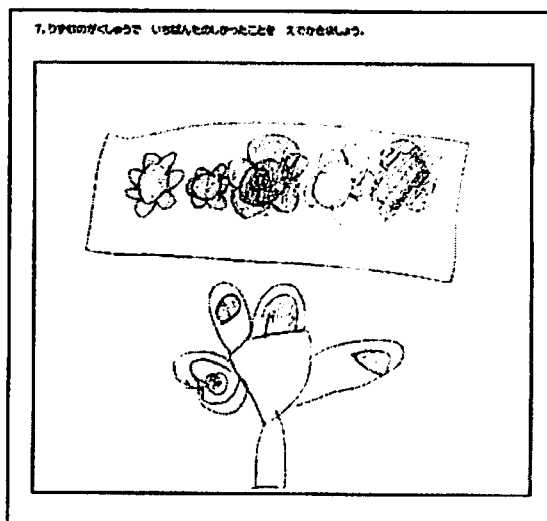


(音楽にあわせて拍をうちながら、教室を歩いたこと) (クラスのみんなど、リズムリレーしたこと)

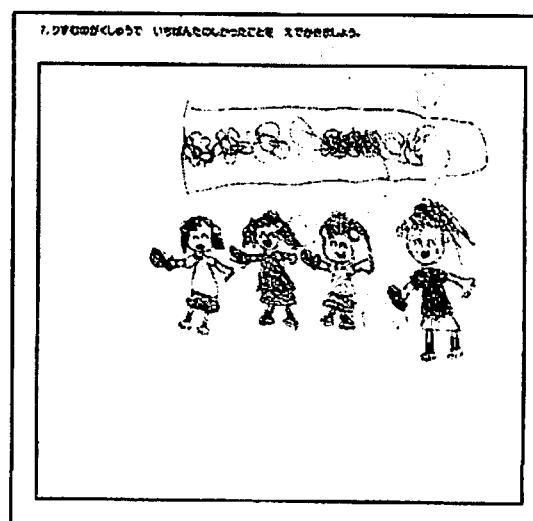


(「みんなであそぼう」で友だちと手を打ったこと)

(「しろくまのじえんか」でおどったこと)



(「ぶんぶんぶん」でマグネットを置いたこと)



(「ぶんぶんぶん」でカスタネットをつかったこと)